

特集

「医療事故ゼロ」を目指す

「医療安全を文化」に



医療安全管理室長

地域の医療機関のご紹介

当院は、皆さんにとって身近な医療機関と役割分担を図り、地域全体で切れ目のない医療を提供することを目指しています。
こちらでは、当院の登録医療機関(かかりつけ医)をご紹介します。

医療法人菅野愛生会 こころのホスピタル・ 古川グリーンヒルズ

〒989-6156
宮城県大崎市古川西館三丁目6-60
TEL 0229-22-1190
※新患の方は受診予約が必要です
[新患受付専用番号]TEL 0229-21-0061
(月曜～金曜 午前8:30～午後5:00)



診療内容

精神科、内科、児童精神科

受付時間

午前 8:30～11:30
午後 1:00～3:30(再来のみ)

休診日

土曜、日曜、祝日、
年末年始(12月30日～翌年1月3日)



地域の皆さんへ

1962年(昭和37年)、医療法人宮城精神衛生会「古川緑ヶ丘病院」として開設しました。その後医療法人菅野愛生会「古川緑ヶ丘病院」を経て、開設55年目の2015年(平成27年)、「こころのホスピタル・古川グリーンヒルズ」に名称変更、2016年(平成28年)6月、新病院が完成しました。

今後ますます「地域・人・こころ」に寄り添い、地域の方々が気軽に受診できる【病院らしくない精神科病院】を目指し、最新の治療、スタッフの連携、技量を高めることはもちろん、ホスピタリティ(親切なおもてなし)を大切に、こころを病む方を支えるお手伝いをしてまいります。



みんなのパタ崎さん

 patasakisan



今回は中央材料滅菌室を見学させてもらったパタ!ちょうどスタッフが医療器具の点検をしていたところだったよ。

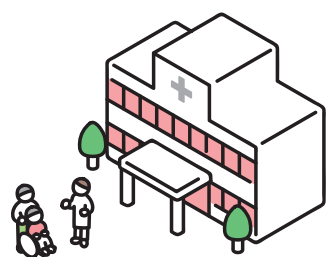
ここでは手術や検査、診療で使った医療器具を、専用の機械で洗浄・消毒・滅菌して安全に使える状態に整えているパタ。きれいになった医療器具は、ふたたびそれぞれの部署へ届けられるパタ。

患者さんの目に触れることはないけれど、感染の予防や安全な医療を支える大切な場所なんだ。まさに病院の「縁の下の力持ち」パタ!

#大崎市民病院 #中央材料滅菌室 #滅菌管理室



「医療安全を文化」に「医療事故ゼロ」を目指す



「医療安全管理」という言葉をご存知でしょうか？医療ミスや事故を未然に防いで、患者さんが安心して医療を受けられるようにするための取り組みです。令和8年4月からすべての病院・有床診療所・助産所で医療安全管理者の配置が義務付けられましたが、大崎市民病院では以前から医療安全管理への取り組みを進めてきました。今回は、医療安全管理の中心メンバーに、どんな体制で、どんな改善を行っているのかを紹介してもらいました。

「医療安全管理」とは？

医療の現場において「安全」という概念が重視されるようになったのは、実はそれほど遠い昔のことではありません。平成11年、複数の病院で患者の取り違えや注射ミスといった医療事故が相次いで起こったことをきっかけに、国をあげて医療安全管理体制の整備が進められました。この年を境に医療界全体の意識が大きく転換しました。それまで医療ミスは「個人のミス」として処理さ

れていましたが、この頃から「組織の課題」として捉え直す動きが急速に広まっていきました。

大崎市民病院でも、こうした潮流の中で医療安全への取り組みを本格的にスタートさせました。長年にわたって積み重ねた経験と知見を活かし、医療安全を「病院全体の文化」とするべく、日々挑戦を続けています。

個人の責任から組織の仕組み改善へ

医療安全の考え方は、「個人のミス」から「組織の課題」へと大きく変化しましたが、参考にしたのが、航空業界の取り組みでした。航空業界は、あらゆる業界の中で安全管理を、最も体系的かつ徹底的に実践してきた分野として知られており、医療界はその手法を積極的に取り入れました。

例えば、航空機のコックピットではスイッチの配置一つをとっても、パイロットの経験年数や国籍にかかわらず誤操作が起きにくいよう設計を繰り返し見直すなどさまざまな工夫と対策が進んでいます。これらはチームでエラーを未然に防ぐ仕組みに通じるものがあります。

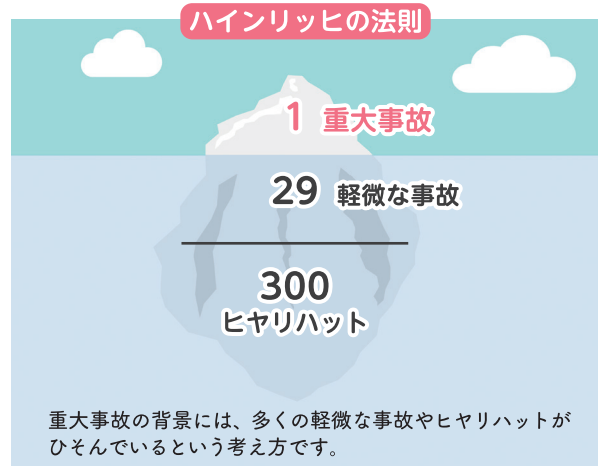
再発防止のヒント、「ヒヤリハット」を見逃さない

重要なのは、ミスが起きた後に

「誰が悪いか」を追及するのではなく、「なぜそのミスが起きやすい状況があったのか」を分析し、現場全体で共有し、再発を防ぐ仕組みを整え、日々実践することです。この発想の転換こそが、現代の医療安全管理の考え方の根幹といえます。

大崎市民病院では医療安全管理室が中心となつて、日々寄せられるインシデントレポートをもとに、各部署と連携しながら再発防止策を検討するという作業を行っています。

インシデントレポートは、実際の事故には至らなかったものの、「ヒヤリ」とした、あるいは「ハッ」とした経験を記録・報告するもので、この「ヒヤリハット」の収集と分析が次の事故を防ぐための重要なヒントになります。1件1件のレポートは小さな出来事ですが、それらを積み重ねて分析することで、特定の状況や環境において事故が起きやすいパターンが浮かび上がってきます。表面化し



ていない課題や危険を「起こるべくして起こる」構造的な問題として捉えることで、初めて根本的な改善が可能になります。

医療安全管理室のメンバーが、病院全体を回りながらヒアリングを行い、情報を収集しています。各部門からあがるインシデントレポートの数も年々増加しています。これは各部門が「もしかすると、ここは患者さんが転倒しやすいかも?」「この機器の操作はもつとわかりやすく表示できる

のでは?」など、「予測や小さな気づきを見逃さない、積極的に共有しよう」という意識が定着していることの表れです。

多職種のメンバーが部門の橋渡し役に

大崎市民病院の医療安全管理室は、特定の診療科や部門に属するのではなく、病院全体を横断する組織として機能しています。医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、放射線技師、事務職員など、さまざまな職種がメンバーとして所属し、それぞれの専門的な視点から医療安全の課題に取り組む体制が整えられています。毎週行われるカンファレンスにはすべてのメンバーが参加し、各部署からの報告をもとに改善策などを検討します。

この横断的な組織体制には大きな意味があります。医療現場では、診療科や職種の壁を越えた連携が不可欠ですが、医療安全管理においても非常に重要です。



中央左
さ さ き ひろひさ
佐々木 浩久
医療安全管理部本院
医療安全管理室主幹
兼係長

中央
つち だ けん
土田 憲
診療部第二血管外科科長
兼医療安全管理部本院
医療安全管理室長

中央右
さ たけ かつ み
佐竹 克心
薬剤部本院薬剤室係長
兼医療安全管理部本院
医療安全室係長

左端
に へい いく え
二瓶 育枝
医療安全管理部本院
医療安全管理室看護師長

右端
そう ま ひろ み
相馬 展美
医療安全管理部本院
医療安全管理室看護師長

医療安全管理対策のためのさまざまなグッズ



脳梗塞の院内発症リスクが高い患者さんの識別バンド（発症時の早期発見・早期治療介入につなげるためのもの）



患者さんの誤認を防ぐ識別バンド



転倒や転落の危険性を患者さんやご家族が視覚的に認識できるようにする注意喚起シール



患者さんの状態を共有するための医療支援ピクトグラム

安心して医療を受けていただくために
さまざまな工夫をしています



ポケットサイズの医療安全のためのマニュアル



医療安全管理室メンバーによるカンファレンス

例えば、薬剤に関するインシデントが発生した場合、薬剤師の視点だけでなく、処方を行った医師、医師の指示のもと投与を行った看護師、それぞれの立場からの分析が必要になります。医療安全管理室が各部門の橋渡し役を担うことで、部門を超えて情報を

共有でき、病院全体の改善策の立案が可能になります。

**研修の充実や
マニュアル整備にも注力**

医療安全管理への意識の醸成や、専門的な知識の共有をより図るため、病院全体を対象にした大規模な研修を年2回実施しています。また、今年から毎週水曜日に救命救急に関する研修も実施し、専門スタッフによる知見や技術の共有を行っています。

さらに、全スタッフが行動を導く際の指針となっている「医療安全管理マニュアル」についても医療安全管理室のメンバーが中心となって改訂などの整備を行い、最新の情報を共有できるようにしています。

こうした教育の機会を充実させることは、一つの出来事を多角的に捉え、表面的な原因だけでなく、その背後にある構造的な問題を見抜く力を職員一人ひとりの中

共有でき、病院全体の改善策の立案が可能になります。

**研修の充実や
マニュアル整備にも注力**

医療安全管理への意識の醸成や、専門的な知識の共有をより図るため、病院全体を対象にした大規模な研修を年2回実施しています。また、今年から毎週水曜日に救命救急に関する研修も実施し、専門スタッフによる知見や技術の共有を行っています。

さらに、全スタッフが行動を導く際の指針となっている「医療安全管理マニュアル」についても医療安全管理室のメンバーが中心となって改訂などの整備を行い、最新の情報を共有できるようにしています。

大崎市民病院 医療安全管理指針

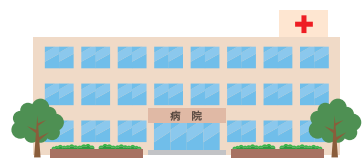
基本理念

われわれ医療従事者には、患者の安全を確保するための不断の努力が求められています。さらに、日常診療の過程に幾つかのチェックポイントを設けるなど、単独あるいは重複した過ちが、医療事故というかたちで患者に実害を及ぼすことのないような仕組みを院内に構築することが重要であります。

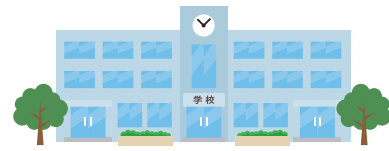
本指針はこのような考え方のもとに、それぞれの医療従事者の個人レベルでの事故防止対策と、医療施設全体の組織的な事故防止対策の二つの対策を推し進めることによって、医療事故の発生を未然に防ぎ、患者が安心して安全な医療を受けられる環境を整えることを目標とします。本院においては院長のリーダーシップのもと、全職員がそれぞれの立場からこの問題に取り組み、患者の安全を確保しつつ必要な医療を提供していきます。

に育み、その積み重ねが医療安全を単なる知識ではなく、「病院全体の文化」として定着させることにつながると考えています。





「がん教育」 ～医療現場から学校へ～



学習指導要領の改訂に伴い、小・中・高等学校で「がん教育」が必修化されています。がんについて正しい知識を子どものうちから学び、健康と命の大切さや、適切な健康管理、そしてがん患者やその家族への理解を深めることはとても重要です。そのため、文部科学省では、医療従事者を外部講師として活用することを推奨しています。

宮城県では、地域のがん治療の中心を担っている「がん診療連携拠点病院」と連携し、医師や看護師等を外部講師として学校に派遣する事業を開始しました。

大崎市民病院もこの事業に参加し、宮城県北地域の学校を中心に、ご依頼に応じてがんの知識や予防について伝えるなど、子どもたちへのがん教育に取り組んでいます。

授業を受けた生徒たちの声

- とても楽しく学べました
- がんは身近に起こるって初めて知った
- 学校の授業や家では分からないことをがん教育で教えていただきました
- がん検診を受けられる歳になったらすぐに受けに行こうと思いました
- もっと「家族を大切にしよう」と思った
- がんになった人への接し方がわかりました
- お家の人にもがんになって欲しくないので、今日のことを伝えたいと思います

関心のある学校関係の方は、是非ご連絡ください。



小学校でのがん教育の授業風景（講師：がんセンター副部長 坂本先生）

学校におけるがん教育の外部講師派遣について
(宮城県公式HP)
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kensui/gaibukousihaken.html>



みなさんのところへ看護師が出前講座に伺います！

専門知識を持つ当院の看護師が、地域の皆さんや民間団体、学校、幼稚園、一般企業、介護施設、病院などでの勉強会に伺います。

主な講義内容

- 感染対策について
(手洗いや消毒の方法、インフルエンザや新型コロナウイルス発症時の対応など)
- 糖尿病予防の生活指導について
- 認知症について
- 脳卒中やがん治療、創傷ケアについて など、多数の講義が可能です。

講義内容や申込方法は、二次元コードからご確認ください。

TEL.0229-23-3311 (アカデミックセンター アカデミック管理室)



おひさき メディカル ワーカー



臨床工学技士

当院は、さまざまな職種のスタッフが皆さんの健康のために医療を提供しています。今回は、臨床工学技士をご紹介します。

臨床工学技士を目指したきっかけ

進学相談会・オープンキャンパスで臨床工学技士という職種を知り、医療機器の専門性に惹かれて進路を決めました。

業務内容

透析装置や人工心肺装置、ペースメーカーなど、患者さんの命を支える医療機器を専門に扱う医療職です。機器の操作や保守だけでなく、医師や看護師、メディカルスタッフと協力し医療チームの一員として患者さんと直接関わる、想像以上に多角的な役割を担っています。

この仕事のやりがい

働き始めて3年目の現在、日々新しい経験を積み重ねています。特に、緊急カテーテル治療(詰まった心臓の血管を広げる処置など)の重要な場面で、準備や段取りが計画通りに進み、患者さんの回復につながると大きな達成感があります。医療と工学の知識を活かし医療の最前線で患者さんの命と向き合う、責任ある仕事です。「求められることが的確に行える、必要とされる技士」「医師や看護師とも対等にコミュニケーションが取れる技士」を目指し、学習を重ねて腕を磨いています。

1日の業務の流れ

透析センター担当の場合(8:00～16:45勤務)

- 8:00 出勤・ミーティング
- 8:30 透析開始
患者さんへ穿刺(注射針を刺すこと)後、装置と接続し治療を開始します
- 10:30 患者さんの様子確認・物品補充
- 11:30 休憩
- 12:40 返血開始
血液を患者さんの身体に戻し、治療を終了します
- 15:00 集中治療センターでの業務
重症患者に使用する医療機器の操作や保守点検
- 16:00 翌日の準備・申し送り
- 16:45 業務終了

大崎市民病院の
先生をリレー形式で
ご紹介します！

Team “tsunagari”
チーム つながり

Vol. 13

本院は45の診療科があり、現在常勤医師は163人所属しています。

第13回は、リウマチ科の武藤智之先生をご紹介します。

普段は、皆さんの健康を守るために尽力している先生たちですが、実は意外な一面も・・・？

むとう ともゆき
武藤 智之 先生

診療科 リウマチ科
主な資格・認定 日本内科学会 総合内科専門医
日本リウマチ学会 専門医
趣味 コーヒーの自家焙煎

香り豊かな
ひととき



赴任して6年目になりました。関節リウマチだけでなく、原因不明の発熱の症例なども時に診察しています。休日は自家焙煎したコーヒーを淹れるのが楽しみです。豆の香りに癒されながら、ゆっくり過ごしています。

次回は、総合診療科の太田 嶺人先生です。

